

らびらび通信

南桑中学校
図書室
司書だより
2020年
5月号

南桑中学校のみなさん、元気にステイホームしていますか。また学校生活が始まるのを楽しみにして、毎日の生活を当たり前と思わず、健康に過ごせることに感謝の気持ちを忘れず、しっかり家庭学習に取り組んでくださいね。

さて、今年度も、『青少年読書感想文全国コンクール』の課題図書が発表されました。今年度は第66回。このコンクールは、児童生徒・勤労青少年を対象に、読書活動の振興等を目的に1955年から取り組まれている読書運動です。南桑中学校ではここ数年、朝読書に取り組んでいます。みんなが静かに本を読み、落ち着いた雰囲気の中で一日を始められるため、授業や行事など日々の活動にも集中できているように感じます。この習慣が、進路実現にも大きく関わってくるのですね。

課題図書は決まっていますが、「必ず読まなければならない」というものでもありません。どの本にもみんなに伝えたい、考えてほしいテーマがあります。何を读もうか迷っているなら、試してみる価値はあると思いますよ。さあ、未知の世界へのとびらを、開いてみましょう！

課題図書

中学校の部



『天使のにもつ』

いとうみく(著)

「頼んでまでして、なんで仕事しなきゃなんないの？ しかもタダで」そんな中学2年・斗羽風汰が職場体験先に選んだのは、保育園だった。「子どもと遊んでりゃいいってこと？ ありかも」本当に大丈夫なのか、斗羽風汰。



『11番目の取引』

アリッサ・ホリングスワース(著)
アフガニスタン難民のサミと祖父の生きる術であり、心の拠り所だった伝統楽器ルバブが奪われた！
買い戻すには1か月以内に700ドルが必要だ。サミは友だちの助けを借りて自分の持ち物で物々交換を始める。希望と友情の物語。



『平和のバトン： 広島の高校生たちが描いた8月6日の記憶』

広島平和記念資料館 原爆資料館 = 弓狩匡純 (著)

「このままでは原爆のことが忘れられてしまう」と、勇気を振りしぼって話しはじめた被爆体験証言者の記憶を、広島市立基町高校創造表現コースの生徒たちが一年をかけて油絵に描いて記録する、『次世代と描く原爆の絵』プロジェクト。証言者と密に接することで、平和な広島で今を生きる高校生たちが戦争や原爆を見つめなおしていくさまを綿密に取材して描いた、平和について考えるノンフィクション。

(作品紹介文は <https://www.amazon.co.jp> から引用)

ただいま図書室は休館中ですが、新しい本も入って、みんなが読んでくれる日を心待ちにしながら、準備をすすめています。学校が再開したら、朝読書も始まるので、たくさん本を読んでほしいと思っています。休校中の人にたくさん本を読んだ人もいるでしょうね。おすすめの本があったら、友達や図書室に紹介してください。次会う時に元気に笑顔で会えるように、手洗い、うがいをし、体調を整えておいてくださいね。 図書室より